

2026年2月度 建築音響研究会 開催報告

2月度研究会は全日本海員組合本部会館で開催いたしました。テーマ「一般」において3件の研究発表、およびミニ演奏会・見学会が行われました。研究発表では、「ホール客席部の聴感印象に対する視覚情報の効果—三次元音場再現システムとHMDを用いた検討」、「全日本海員組合本部会館の改修—建築の継承と更新」、「全日本海員組合本部会館「地下大会議室」の改修プロジェクト—モダニズム建築の再生における音響設計の意義」の3題について幅広い議論が行われました。後半は、全日本海員組合本部会館地下会議室において、ミニ演奏会および見学会が行われました。27名の皆様にご参加いただき、大変活発な質疑討論が行われ有意義な研究会となりました。

今後とも引き続き、積極的な話題提供と研究会への多数のご参加をお願い申し上げます。

■開催概要

日 時 : 2026年2月4日 (水) 13:30 ~ 16:45

場 所 : 全日本海員組合 本部会館

議 題 : 一般

発表件数: 研究発表 3件、ミニ演奏会+見学会

参加者 : 27名



研究発表



ミニ演奏会

■発表題目および内容概要（テーマ：一般）

※以下の概要是建築音響研究会資料の「内容概要」から転載したものです。

1. ホール客席部の聴感印象に対する視覚情報の効果
—三次元音場再現システムとHMD を用いた検討—

杉本みこり，松尾綾子，上野佳奈子（明治大学），
井上瑞紀，青木亜美（日建設計）

【概要】ホールのステージ周辺の視覚情報は聴感印象に影響を与えるが、その具体的な効果は明らかになっていない。本研究では、壁や天井の素材・色が聴感印象に及ぼす影響を検討するため、視聴覚実験を行った。三次元音場再現システムとHMD を用いてホール客席での音楽聴取環境を再現し、視覚情報のみを変更した。心理評価の結果、天井および壁の色が暗い条件で音の大きさに関わる評価が高くなるなど、視覚情報による有意な影響が確認された。さらに、評価グリッド法により評価要因を探った。これらの結果より、音楽聴取時の印象にステージの視覚的要素が及ぼす影響について検討した結果を報告する。

2. 全日本海員組合本部会館の改修—建築の継承と更新—

石黒健太，白岩透（野沢正光建築工房）

【概要】1964年竣工の大高正人設計「全日本海員組合本部会館」の全面改修に関する報告である。本作は大高事務所最初期の代表作で、2つのコアとジョイストスラブによる開放的な空間、都市に開かれた構成が特徴だが、老朽化と耐震性が課題となっていた。改修では「性能の今日化・長寿命化・歴史の継承」を指針とし、有識者委員会を設置して判断基準を共有。増築部の撤去により耐震性を確保し、ジョイスト梁を露出させた設備計画で空間の質と性能を両立した。文化財指定のない民間建物において、原設計の思想を「生きた建築」として継承・更新した事例であり、今後の近代建築保存の参考モデルとなることを目指した。

3. 全日本海員組合本部会館「地下大会議室」の改修プロジェクト
—モダニズム建築の再生における音響設計の意義—

大木大夢, 宮崎秀生 (ヤマハ)

【概要】本稿では、全日本海員組合本部会館改修プロジェクトにおける地下大会議室の音響設計について報告する。本施設は歴史的価値の高い建築空間を有する一方で、老朽化や利用形態の変化への対応が求められていた。特に、地下大会議室は従来会議室として使用されていたが、会議室としての利用頻度が減少しつつあることから、音楽公演等にも対応可能な多目的ホールへの用途拡張が計画された。同時に、歴史的価値の継承という観点から、建築意匠の保存も重視された。そこで、改修にあたっては、改修前音響測定により原音場の特徴を把握するとともに、用途拡張における課題を整理し、音響設計を実施した。改修後の音響測定からは、静けさ、室内音響特性および電気音響特性のいずれも、設計意図どおりの性能が得られていることが示された。

☆ 建築音響研究会の資料（バックナンバー）に関する問合先:

建築音響研究委員会 HP (<https://asj-aacom.acoustics.jp>) にてバックナンバーのページをご確認いただき、研究会幹事団までお問合せ下さい。